

令和5年度 学校評価報告書 (目標設定・実施結果)

視点	4年間の目標 (令和2年度策定)	1年間の目標	取組の内容		校内評価 (中間報告)		学校関係者評価 (10月22日実施)	総合評価 (3月12日実施)	
			具体的な方策	評価の観点	達成状況	課題・改善方策等		成果と課題	改善方策等
1 教育課程 学習指導	<ul style="list-style-type: none"> <li>・新教育課程において、工業教育の特色を生かし、社会で必要とされる専門性の向上を図る教育課程を提供する。</li> <li>・自ら課題を発見し解決する力の育成と主体的に学ぶ意欲の向上を図る。</li> <li>・学校行事や生徒会活動を通じ、自他の多様性を尊重させ、生徒の主体的な活動の促進を図る。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>①教育課程を再検討し、ICTを活用した授業力向上や、生徒の工業への関心を高め、積極的に参加する意欲を向上させる。</li> <li>②生徒会行事の円滑な運営を支援し、生徒の自立心を育成させる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>①令和6年度入学生に対し本校の特色を生かした新しい魅力ある教育課程を提供する。授業用コンテンツの充実と授業改善としてICTに注力した研究授業を実施する。</li> <li>①資格取得への指導体制を構築し支援するとともに、生徒の行事等への参加を促す。</li> <li>②学校行事等において、企画・準備段階から生徒が主体的に取り組むよう支援していく。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>①令和6年度入学生に新しい特色のある教育課程は提供できたか。授業用コンテンツの充実と授業でのICTの活用は増えたか。</li> <li>①資格取得の受験者数・合格者数は増加したか。行事等に生徒が参加する機会を設けることができたか。</li> <li>②学校行事等において、生徒が主体的に活動でき、成功体験を積ませることができたか。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>①総合的な探究の時間、進路別必修選択を取り入れた新しい教育課程を策定できた。ICT活用についてはICTに特化した研究授業の実施を予定している。</li> <li>①生徒の資格取得状況は順調で、ジュニアマイスター前期申請では、16名(ゴールド4名、シルバー5名、ブロンズ7名)が申請している。</li> <li>②体育祭の種目の見直しなど、生徒の声を反映させることで主体的な取組みを支援できた。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>①探究についての授業内容、進路別の選択授業の選択モデルなど検討中の多くの課題がまだ確定していない。PTで検討し、年度内に確定する。</li> <li>①職員の負担増にならないような指導体制を構築し、資格取得を進めていきたい。また、自身の進路を見据えた資格指導も考えていきたい。</li> <li>②生徒が主体となる向友祭の実施に向けて、生徒会や参加団体に必要な支援や準備を滞りなく進めていく。</li> </ul>	<p>工業教育の特色を生かしつつ、生徒の主体性、自主性を育み労働観、職業観を身に付けさせる取組の継続に期待したい。</p> <p>教師と生徒の関係が良好であり、生徒のやる気を引き出す先生方のご苦労が成果として表れていると感じる。</p> <p>資格取得指導が職員の負担になっていないか等、課題を見つけ、総合評価に向け解決する為のプロセスを計画的に推進してほしい。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>①魅力ある新しい教育課程を策定し、今後の教育活動のより一層の充実が期待できる。ICTを活用した授業研究については基本形を策定できた。今後はより改善を図り、質の向上を目指したい。</li> <li>①生徒の資格取得状況は、昨年より合格率を向上させ、上級資格の取得にも挑戦することができた。ジュニアマイスターも18名(特別表彰4名、ゴールド2名、シルバー4名、ブロンズ8名)が申請した。引き続き進路を見据えた資格取得指導を目指していきたい。</li> <li>②向友祭(体育の部、文化の部)では、各クラスや各団体の生徒たちが協働的かつ様々な工夫をしながら主体的に取り組む様子があった。成功体験をもとに自信と自立心を抱かせることができたと考えている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>①総合的な探究の時間については準備が遅れているので探究PTを中心に準備を進めたい。</li> <li>①他のグループと連携し、生徒に工業高校での3年間の学校生活に見通しをもたせる指導をしていきたい。進路に向けて、何をすべきか計画を立てる場面を設定していきたい。</li> <li>②体育館が改修工事ということもあり、文化祭では企画を一部制限していたが、次年度に向けて改めて生徒たちが主体的になって楽しめる学校行事を行えるよう支援していく。</li> </ul>
2 (幼児・児童・)生徒指導・支援	<ul style="list-style-type: none"> <li>・自己の成長を意識させ、社会人としての基礎力を身に付けさせる。</li> <li>・学校行事や部活動を通じて、責任感、協調性、自主性の涵養を図る。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>①教育相談体制を強化し職員間の情報共有を密にしながら、支援教育の視点を持って、問題行動等の未然防止と問題解決を図る。</li> <li>②学校行事や部活動における生徒の主体的な活動への支援を通して、自立心や責任感を育成する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>①課題や問題を抱えた生徒の課題解決に向け、教育相談体制を整え、SCやSSW、教育相談コーディネーター等と連携しながら組織的な対応をする。配置されたスクールメンターの有効活用も進める。</li> <li>②各種委員会や部活動において、生徒一人ひとりの役割を理解させながら生徒の活動を支援する。</li> <li>②挨拶・服装・頭髪・遅刻等、粘り強く指導を行う。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>①学年や教科間及び教育相談担当との連携による組織的な支援教育を充実させることができたか。</li> <li>②学校行事や部活動において、生徒が自主的に取り組むことにより、各種委員会や部活動の活性化が図れたか。</li> <li>②遅刻指導等の件数が前年度より減少したか。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>①子どもサポートドックを活用しつつ、生徒情報の共有化を図り、支援を必要とする生徒に対しては適切な対応を進めた。</li> <li>②各部活において、チームや個人の目標設定などを行い、意欲を持った活動が行えている。</li> <li>②遅刻指導の件数は昨年より増加している。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>①日々の生徒情報の共有をはかり、支援が必要な生徒に対して適切な対応を今後も続けていく。</li> <li>②かながわ部活の日の期間で部活総点検の日を設け、顧問や部員に点検表にチェックをしてもらうことで今後の活動の一助にしてもらう。</li> <li>②引き続き、粘り強く遅刻指導を行っていく。</li> </ul>	<p>文化祭等の様子から先生方と生徒の心が通じ合っていると感じる様子が窺え、良い関係であると思われる。</p> <p>就職率が高い本校において、遅刻指導が増加していることに不安を感じる。一定レベルの自律性を身に付けさせてほしい。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>①子どもサポートドックを2回実施し、支援を必要とする生徒の情報共有をおこなえた。また、SC、SSWとの連携も積極的に図ることができた。</li> <li>②各部活動等において、目標達成に向けた活動をすることができた。</li> <li>②遅刻指導の件数は1・2年生は増加したが、3年生は減少した。学校生活に対する意識の違いが表れているようである。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>①令和5年度は短いスパンで2回のサポートドックの実施となったが、より良い時期にサポートドックが行えるよう計画的に準備をしたい。</li> <li>②県の部活動の方針が改定されたことを受けて、改めて向の岡工業高等学校の部活動方針を定め、合理的かつ効率的・効果的な活動を行う。</li> <li>②学校生活に対する意識づけを含め、粘り強く指導を行っていく。</li> </ul>

	視点	4年間の目標 (令和2年度策定)	1年間の目標	取組の内容		校内評価 (中間報告)		学校関係者評価 (10月22日実施)	総合評価 (3月12日実施)	
				具体的な方策	評価の観点	達成状況	課題・改善方策等		成果と課題	改善方策等
3	進路指導・支援	<ul style="list-style-type: none"> <li>生徒一人ひとりの進路実現に向けた進路指導の充実を図る。</li> <li>社会的・職業的自立に資するよう、労働観、職業観を育成する。</li> </ul>	<p>①3年間を見通した進路の早い段階での意識向上を図るためのキャリア教育プランを策定する。</p> <p>②外部機関と連携し、進路における最新情報を得ることで、労働観や職業観及び社会規範の意識向上や適切な進学選択を図る。</p>	<p>①グループ主催の進路指導以外に担任との連携によりLHRを利用した、自己理解や適正理解、様々な情報を収集し社会人として必要な能力及び、資格取得の重要性についてのカリキュラムを作成し活用できたか。</p> <p>②進路に関する有益な情報を生徒に周知することで、生徒の意識が向上し、労働観や職業観及び社会規範の意識向上が図れたか。</p>	<p>①3年間のLHR活用における進路に関する自己や適正の理解、社会人としての能力向上、資格取得の重要性についてのカリキュラムを作成し活用できたか。</p> <p>②進路に関する有益な情報を生徒に周知することで、生徒の意識が向上し、労働観や職業観及び社会規範の意識向上が図れたか。</p>	<p>①進路の関わるカリキュラムを作成し、4月当初全学年の担任へ配布・共有を行った。</p> <p>②5月に自己の適性を把握できるような進路説明会を行った。また、6月には3学年の進路選択において保護者と生徒間での就職・進学に関する意識向上が図れるよう保護者対象の説明会を行った。</p>	<p>①工業高校の特徴についての理解不足による進学と就職の考え方へのミスマッチが強く指導をしている。</p> <p>②生徒の進路選択において、視野を広げ意識向上が図れるよう業者と連携を図り、より多くの情報周知に努める。</p>	<p>インターンシップ等働く体験を通して働くことの意義や自身の進む道に目を向ける機会が今後も必要である。</p> <p>進路に関するLHRを取り入れたカリキュラム作成では、LHR活用への生徒の反応を検証して今後に生かしてほしい。</p>	<p>①カリキュラムの活用により、適性について深く考えさせることができ、結果、前年度より1次内定率を7%増加させることができた。課題としては、求人数が増えていく中で、何も考えていない生徒が若干名いる</p> <p>②業者との連携により、進路に関する目的意識を育むことができた。課題としては、企業選択直前まで動かず安易に決めてしまい、ミスマッチにより進路が決まらない生徒が若干名いる。</p>	<p>①求人数が増加する中で将来の目標を持ち進路選択ができるよう、多くの情報を収集し、体験できるようなカリキュラム作成に努める。</p> <p>②ミスマッチ削減のため、学生生活を送る中で、できるだけ色々な経験をし、情報収集できる環境を業者との連携を強化することで、生徒にあった指導を行っていく。</p>
4	地域等との協働	<ul style="list-style-type: none"> <li>「地域とともに育つ向工」を実現し、「地域で活躍する向工生」を育むために、地域社会との連携による教育活動を推進する。</li> </ul>	<p>①「地域とともに育つ向工」の実現をめざし、分かりやすく本校の教育活動を発信する。</p> <p>②「地域で活躍する向工生」を育むために、コロナ禍で制限されていた地域や企業との連携事業を増進する。</p>	<p>①ホームページの動画等を充実させ学校活動や魅力について積極的な広報活動を行う。また、学校説明会の内容を再検討し学校体験等も充実させる。</p> <p>②自動ハンドベル演奏やものづくり体験教室等において、他者に伝わるものづくりの楽しさを通して、自ら考える力やコミュニケーション能力を育む。</p>	<p>①ホームページを頻繁に更新し、学校行事等の紹介を通して学校の魅力を積極的かつ詳細に発信することができたか。</p> <p>また、学校説明会参加者、受検者が増えたか。</p> <p>②ものづくり体験等に積極的な生徒参加が促進でき、自ら考える力やコミュニケーション能力、他者へ伝える楽しさ等のものづくり教育ができたか。</p>	<p>①ホームページにおいて、学校行事や部活動の大会報告等、実施後すぐに発信をすることができている。</p> <p>また、学校説明会や公私合同説明会等多くの参加があり、広報活動が行えた。</p> <p>②ワクワク体験やテックラボ等において多くの生徒が参加し実施することができている。</p>	<p>①これからの説明会で授業見学を行い、工業高校の魅力、学校紹介を行っていきたい。ホームページの更新も継続して行っていききたい。</p> <p>②今後行われる行事に積極的に参加し、コミュニケーション能力等を育みたい。</p> <p>③令和6年度入学生向けに新教育課程、探究活動等の紹介を行う。</p>	<p>ホームページでの広報活動の他に、友祭等で生徒の学習内容を取り入れ、展示や体験を充実させた内容にするとさらに有効である。</p> <p>入学を検討する中、学生に向けて、文化祭の2日間開催や学校説明会を3回行う等アピールに力を入れており、今後の企画にも期待したい。</p>	<p>①学校説明会を年4回実施し、テックラボ（高校体験）は3回実施した。入学者は定員に至らなかったが、テックラボ・説明会等の参加者の多くが本校を志願してくれた。また、ホームページの更新を引き続き積極的に行い、見やすくするため整理する。</p> <p>②学校説明会や公私合同説明会、テックラボなど積極的に生徒参加を促進する。また、中学校訪問の際、母校訪問を実施する。</p>	<p>①来校者集計結果を確認し、実施時期や回数などを検討する。また、中学校の先生にもより一層アピールできるようにする。ホームページの更新を引き続き積極的に行い、見やすくするため整理する。</p> <p>②学校説明会や公私合同説明会、テックラボなど積極的に生徒参加を促進する。また、中学校訪問の際、母校訪問を実施する。</p>
5	学校管理 学校運営	<ul style="list-style-type: none"> <li>校内の情報機器の整備と防災教育を推し進め安全安心な教育環境を構築する。</li> <li>全ての職員の資質向上を図るとともに風通しの良い職場づくりをめざし教職員の事故不祥事を未然に防止する。</li> </ul>	<p>①情報機器の有効活用や、災害時の安全確保等、生徒の主体的な行動を育成する。</p> <p>②保護者等・地域に信頼される学校づくりをめざし、不祥事防止に取り組む。</p>	<p>①情報機器の利用に関して研究授業や研修会を行う。</p> <p>①実践的な避難訓練を計画的に行い、成果と課題を検証し、次へ活かせるようにする。</p> <p>②私費会計等、担当者向け研修を行い、知識を身に付け、また、全職員が連携・協力して未然防止の意識啓発を図る。</p>	<p>①教員が授業への効果的な利用ができたか、また授業を受けた生徒の反応、変化はどうか。</p> <p>①防災訓練実施後の振り返りシート等で理解度や効果を図る。</p> <p>②全職員で不祥事ゼロの意識を持ち、達成できたか。</p>	<p>①情報機器に関する研修はまだ行っていない。</p> <p>①防災訓練において、身近に起こりうる災害について、確認する機会を設けた。</p> <p>②会計担当者向け研修を各学期に1回ずつ行った。</p> <p>②毎月の職員会議で事故不祥事防止会議を行った。</p>	<p>①ICT機器の利用に関する質問等をどのように受けていくか。</p> <p>①非常放送の聞こえ方が不十分だったため、当日中に確認を行ったが、今後はトラブルなく行えるようにする。</p> <p>②継続的な声掛けや研修を行う。</p>	<p>ICTを活用したアンケートを活用して、生徒の理解度を随時確認しながら授業を進める等、さらなる有効活用を期待する。</p> <p>ごみの分別が徹底されていて素晴らしい。</p>	<p>①情報機器利用の促進に関する研修を行うことはできなかったが、防災訓練においてICT機器を用いて安全確認作業を生徒と共にすることができた。今後はより効果的な利用方法について検討し、全職員に共有していきたい。</p> <p>②今年度、大きな事故や不祥事は起こらなかった。来年度も気を抜かず、継続的な研修や声掛けを行っていく。</p>	<p>①教務グループと連携をし、ICT活用の研修会、その後、研究授業という流れを作り、より実践に向けた活動にしていく。</p> <p>②会計担当者の負担を軽減するために、使用するファイルを共通化し、誰が見てもわかりやすく扱いやすいものにする。</p> <p>教室や選択教室の整備を進める。</p>